

長崎縣五島に於ける大豆栽培の実態

中 村 盛 三
長崎縣農業試験場

NAKAMURA, S. Soybean Planting in Goto Island, Nagasaki Prefecture

I. 緒 言

長崎縣五島列島の福江島、宇久島及び小値賀島は長崎縣に於ける大豆の主要生産地で、甘藷と共にこの消長は五島地方の經濟に大きな影響を及ぼしている。しかも大豆の収量及び栽培面積は次第に減少の傾向が見られ、栽培法も原始的であるから、今後栽培法の改善及び品種の導入並びに育種目標の資料を得るために、その実態を調査した結果、一般の大豆栽培状況と異つた特殊な面が多いので、こゝで報告することとした。大豆に関連した經濟的面はこゝでは省略することにした。

II. 調査方法

1. 五島列島中の福江島に於て大浜村、富江町、三井楽町。宇久島に於ては平町及び神浦村、小値賀島では小値賀町を選定した。

2. 予め調査地担当の農業改良普及員と連絡し、調査地に於ける大豆の成熟前10～15日を見計らい現地調査を行つた。なお調査は昭和28年度農林省改良局研究部との連絡調査の方法に準じて行つた。

3. 当地方に於ては秋大豆は本年度小値賀で試験的に栽培されたのみで、秋大豆の栽培はないので、調査も夏大豆のみを対象とした。

III. 調査結果

1. 気候及び地勢の概要 気候は温暖な海洋性で年平均17°～18°Cで年間を通じ無霜地帯もある。雨量は年2000～1500mmとなつている。地勢は畑地は福江島が最も広く、比較的平坦又は台地に発達しているが、上五島の宇久島、小値賀島は傾斜畑が多い。福江島1戸当經營面積は田畑合計約8反で1町以上の所が相当に見受けられる。畑地は總体的に見て瘦薄であり、福江島では經營面積が広いので、耕作技術も土地

利用も粗放であるが、上五島では經營面積が比較的狭いのでその利用度は割合に高いが傾斜地が多く侵蝕のため地力が劣る傾向にあるようである。福江島では以前より畑地に海砂を搬入する習慣があり、そのために土壌は中性またはアルカリ性を呈する所が多い。また玄武岩土壌が多く重粘である。

2. 大豆を入れた作付体系 大豆を入れた作付体系は、麦—甘藷—休閒—大豆—^{休閒}麦の2年3作の形が代表的なもので、大部分がこの形である。その他甘藷あとの休閒がない麦—大豆—^{休閒}麦—甘藷—麦の形と、これらの体系中の作物の代りに、適当に粟、煙草、蚕豆、瓜類を入れた形が若干ある。小値賀のみは甘藷あとの休閒は1%程度で、麦—大豆—^{休閒}麦—甘藷—麦の形が98%近くを占めている。またこの体系の大豆と麦の間に粟を入れている所もある。

3 栽培大豆の品種 在来種が大部分を占めており、白目、生娘、祇園坊と思われる系統が若干入つている程度であるが、小値賀のみは逆に在来種は10%位で、少なくなつている。品種の分布状況及び特性の概要を示すと第1表の通りである。

当地方は品種に対する関心は割合高く、以前より歴々長崎縣内の他地方より品種を入れていたが、その何れもが結果悪く、再び在来種が大部分を占めるようになった。このことはこの地方の原始的慣行栽培様式には在来種が最も適しており、安定であるということが原因のようである。小値賀のみ在来種が10%位で少ないのは、比較的管理がよく行われ、栽培法もかなり集約的であるため、原始的な在来種よりも白目等の進んだ品種がこれに代つたものと思われる。

4. 播種期 気候は温暖で、しかも休閒地に裸地播とする所が多いので、播種期は一般に早く3月下旬～4月上旬が普通である。然し大浜村一帯の地方は5月下旬播となつていて非常に遅い。この理由として農家の言によると、3～4月頃は雨がも多く種子の流失、発

(第1表)

調査地	品種名	栽培面積	播種期	開花期	成熟期	花色	粒色	反当収量	
		(町)	(月日)	(月日)	(月日)			(石)	
福江島	大浜 在來種(ドロカブリ) 白生祇恩 日娘坊	53	5上～6上	6下～7上	8中～8下	白	黄緑	0.6～0.7	
		2	〃	6下～7中	〃	紫及白	黄	〃	
			〃	6下～7上	8中～8下	紫白	〃	〃	
	富江	在來種 白目	217	4.1～4.5	6.10～6.15	8.5～8.8	白	〃	0.7～1.0
			125	〃	6.13～6.17	8.1～8.5	紫及白	〃	〃
	三井樂	在來種 白祇恩 生目坊娘	430	4.2	6.10～6.15	7.25	白	〃	0.7～0.8
90			〃	〃	7.27	紫及白	〃	0.5～0.8	
25			〃	〃	7.25	白	〃	〃	
5			〃	〃	7.29	紫	〃	〃	
宇久島	平及び 神ノ浦 在來種(黒目) 生白娘目	273	3.25	6.18～6.20	8.13～8.15	白	〃	1.0～1.2	
		14	〃	6.20	8.20	紫	〃	1.0	
〃	〃		6.15～6.18	8.10	紫及白	〃			
小値賀島	白生祇恩 日坊娘 在來種(デコ)	64	4.10～4.20	6.15	〃	白及紫	〃	0.8	
		13	〃	6.10	8.7～8.8	白	〃	0.6～0.65	
		37	〃	6.18	8.15	紫	〃	0.7～0.8	
		13	〃	6.10	8.7～8.8	白	〃	0.7～0.8	
	其他白口1号, 松浦		0.6町程度						

芽障害等が挙げられるが明確な理由は確めることが出来なかつた。小値賀では麦間(小麦または稈麦であるが、稈麦の場合が多い)に播種するので、麦の出来具合に応じて播種期を加減するので、4月上旬から4月下旬播となつている。

5. 播種量 播種量は一般に非常に多く、小値賀のみは反当3.5～5升であるが、他の所は7～12升である。これは播種後管理を全く行わないので雑草の抑圧が主な目的で、その他土地の瘦薄と無肥料栽培のため株数で収量を上げようとするのが狙いのようである。

6. 播種法 畦布は0.5～1.0尺で条播が行われ、五島型という原始的な安定の悪い型を用い、圃場を渦巻状に廻りずきを行つて、作条を作り条播し、覆土する方法が用いられている。小値賀では畦巾2.0尺で0.5尺株間4～5粒点播の2～3本立であり、五島では最も集約的である。

7. 施肥及び管理 富江では以前より堆肥は反当150貫内外施す農家もかなり見受けられるが、他の大部分は無肥料栽培で、反当過石を1～5貫、草木灰若干を施している農家が僅かある程度のものである。昭和10年前後には過石、稀に硫酸少量を施している農家もかなり見られたが、戦争中及び戦後の肥料入手

難で再び無肥料栽培となつたものゝようである。小値賀島及び宇久島では昭和の始め頃まで、乾燥海藻(ホンダワラ類)を反当100貫位施用していたが、その後海岸使用権の問題で、施用をやめ、現在は殆んど全部無肥料栽培である。管理は下五島、福江島では全く行われぬが、小値賀では、開花前に2回位中耕、除草、土寄せを行つている。宇久島では土寄せはやらない所が多いが、1回位中耕、除草を行つている。

8. 收穫、脱穀、調製 收穫の方法は、午前中採取り、そのまゝ畑で乾燥し午後連枷又は棒で打落す方法が行われ、小値賀のみ一部では足踏廻転脱穀機を使用する所もある。

9. 収量 収量は現在反当0.7～1.0石位で以前に比して減少しているようである。小値賀島及び宇久島では海藻を施していた。昭和の初め以前は1.2～1.6石であつたのが、海藻の施用をやめてから漸減し現在は8～1.2石と云われる。減収の最大の原因は戦中戦後にかけての土地の酷使の結果ではなからうかと思われ。

10. 採種 三井樂では農試より送付した白目を採種圃で採つているが、慣行栽培のため、収量は少なくその種子は農家の約1%程度配分出来るに過ぎない。他の所は100%自家採種である。

11. 病虫害 病虫害について簡単に記すと、早播の関係で病虫害は割合に少なく、大浜地方を除き、サヤマバエ、シロイチモンジマダラメイガ等子実喰害々虫は見られない。こゝで見出された主な害虫はヒメコガネ、ホソヘリカメムシ、マルカメムシ、クサカメムシ、フタスジヒメハムシ、アブラムシ、アカダニ、ツメクサガ、マメハンミョウ等の外バツタ類の被害も見られた。病害は昭和20年から21年に萎黄病の大発生

を見たが在来種は被害は少なかつたが、白目等の品種はこの時大被害を受けた様子である。現在ではこれの被害も見られないようである。その他宇久島で葉斑病を少し認めたのみである。

IV. 考察並びに結言

以上要約すると、五島の大豆作は小値賀を除き極めて原始的で密播、密植、無管理の粗放栽培で在来種により株数で収量を補う方法の栽培が行われている。かゝる栽培法が現在まで依然として行われている原因と思われる点は、(1)土地が瘦薄である。(2)1戸当り経営面積が平均8反余りで広大である。そのために労力不足となり集約栽培が困難である。(3)土質は玄武岩土壌の地帯が多く重粘で作業が困難である。(4)農家に積極的栽培法改善意欲が見られない、等であろう。今後の対策として第一番に挙げられる事は地力の培養で、それと平行して現在の慣行栽培法を改善し、当地方に適応する優良品種の導入を行うことが必要である。又在来種の系統淘汰も効果あるものと思われる。

第2表 五島に於ける夏大豆生育状況

調査地	品種	草丈 (cm)	分枝 数	一株 莢数	一尺間 株数	畦巾 (尺)
大 浜 富 江 三 井 樂	在 來 種	43.0	0	8.2	15.1	0.5~0.7
	在 來 種	45.0	0	14.2	13.2	1.0~0.7
	在來(上畑)	27.1	1	12.0	14.2	0.7
	在來(〃)	32.8	0	11.2	14.0	0.7
	在來(中畑)	33.7	0	8.5	12.1	0.5
平	在來(瘦地)	49.6	0.4	19.9	8.0	1.0
	在來(中畑)	45.1	1.4	22.3	5.5	1.0
小値賀	白 目	44.2	3.0	34.2	5寸 点播 2~3 本立	2.0
	在 來	32.6	1.6	24.6		2.0

備考：1 圃場5ヶ所を at ramdam に取り1ヶ所
20株測定の平均値で示した。
測定は7月15日~7月21日に行つた。

参 考 文 献

古谷義人, 宮崎 司, 九州に於ける大豆作
九州農試彙報 第1巻, 第3号